

「歯周病を早期発見するために」

住友商事株式会社 歯科診療所長 小林宏明
日本歯周病学会 歯周病専門医・指導医
東京医科歯科大学歯学部 臨床教授（歯周病学）

「唾液歯周病検査（唾液潜血検査）」

歯周病は症状がなく静かに進行する Silent Disease と呼ばれる病気です。気づいた時には手遅れになっていることが多いです。早期発見のため、この唾液歯周病検査をお勧めします。

この検査は唾液中の潜血を調べ、生体の免疫炎症反応を評価します。検査方法は、付属のガムを噛んで、出てきた唾液をチューブに入れて郵送するだけです。唾液中のヘモグロビン（赤血球）数を測定し、具体的な数字で検査結果がでます。簡単で時間もかからず痛みもない、自宅でできるスクリーニング検査キットです。

唾液に赤血球が混じるということは、口腔内のどこかで細菌侵入とそれに対する免疫応答がおこっています。そのほとんどは歯周病による炎症反応です。また、潜血反応は、親知らずの炎症の可能性もあります。そして、ごく稀ですが、白血病や口腔癌、舌癌による自然出血なども見つけることが可能です。

検査結果で、口腔内に出血を伴う強い炎症反応がある場合には、歯科医院での口腔内の精査をお勧めします。この検査キットは、炎症のスクリーニングキットです。

この検査をお奨めしたい方は、以下の方です。

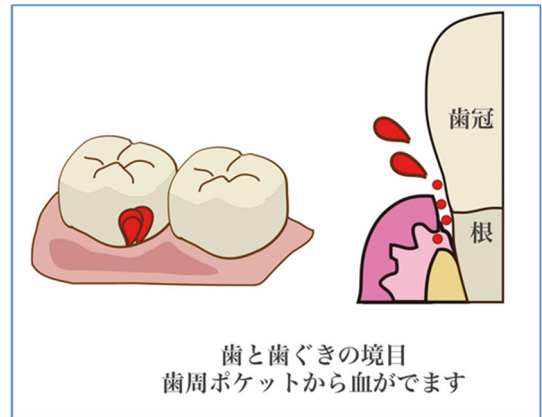
- ・最近、歯科医院で歯周ポケット測定をしてもらってない（歯と歯茎の間の溝の深さを mm で測定する検査）
- ・最近、歯科医院で歯肉からの出血検査をもらってない（歯周ポケット測定時の出血有無の検査）
- ・自分の口腔内の炎症状態を客観的に数字で評価したい。
- ・ずっと、自分の歯で好きなものを食べたい。

この唾液検査キットでは、自分では気づかない口腔内の炎症反応がスクリーニングできます。自覚症状がなくとも、持続的な免疫応答と炎症は口腔内だけではなく全身の炎症につながります。唾液中のヘモグロビン量をこのキットで測定して、自分の口腔内をスクリーニングしてみましょう。

「なぜ、唾液中に血が混じるのか」

どこから血がでてくるのでしょうか。

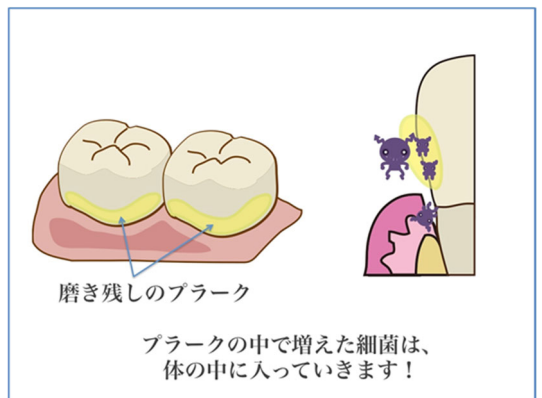
口のなかの皮膚（上皮）が歯ブラシなどで切れて、そこからでてくるのではありません。歯と歯ぐきの境目、歯周ポケットという溝から血がでてきます。歯ぐきに炎症があると、この歯周ポケットの内面から血があふれでて、口の中の唾液に混ざって、赤く見えるのです。



では、なぜ血がでるのでしょうか。

歯の表面に「プラーク」と呼ばれる細菌の塊ができます。この細菌は、歯と歯ぐきの境目から体の中に入ろうとします。

ヒトの体はこの細菌と戦うために、歯ぐきに白血球を集めます。この白血球が集まる時に、赤血球も集まってしまいます。赤血球が溜まっている状態で、歯ブラシなどの機械的刺激があると、赤血球があふれ出ます。唾液中に少しでも赤血球が混じると赤く見える、それが口腔内の出血、という状態です。



赤血球が体からでてくるということは、どこかに穴があいています。細菌刺激によって、歯周ポケットの内側に無数の傷ができていて、そこから赤血球があふれでてきます。そして、穴があいているということは、そこを入口として口の中の細菌が体の中に侵入しています。この体に侵入した細菌は、血液に入って、体中をまわっていきます。

歯周病と心血管疾患（心筋梗塞・狭心症）発症との関連性が大規模な調査から報告されています。また、血管の壁に付いているアテロームから歯周病の細菌がみつかっており、歯周病がアテローム形成へ悪影響を及ぼすことも報告されています。アテローム形成の進んだ血管は動脈硬化をおこすことが多く、最終的には心筋梗塞や脳梗塞などをまねく、非常に危険な状態です。

歯ぐきで、細菌とヒトの細胞が戦っていると、その戦いで出たサイトカインという起炎物質が血液にのり、さまざまな他の臓器に到着して、悪影響を及ぼします。

歯周病は、糖尿病、早産・早期低体重児出産、肥満、腎臓病などの他の疾患に悪影響を及ぼします。

歯周病は早期発見で治ります。口腔内の炎症をスクリーニングして、ずっと自分の歯で好きなものを食べられるようにしたいですね。